

詩のポイント

表現技法について

ひ ゆ
比 喩

比喩とは…

あるものをほかのものにたとえる表現技法。

状況・イメージがつかみやすい。

「比喩」にはいろいろな種類がある

ちよく ゆ ほう

めい ゆ

直喩法 (明喩)

「ように・みたいに」などを用いて、
直接明らかにして例える用法。

(ちょう)

ありが てふの羽をひいていく

(ヨット) (よ)

ああ ヨツトのやうだ

「~のようだ」がもちいられているので

直喩法 (明喩)

いん ゆ ほう

あん ゆ

隠喩法 (暗喩)

比喩であることを直接示さず，たとえるものと直接に結び付ける方法。

(「ように・みたいに」を使わない)

ぎ じん ほう 擬人法

人間以外のものを，人間にたとえる方法

春は かるくたたずむ

たたずんでいる（立ち止まっている）のは、「春」である。
実際には「春」は人間ではないので、たたずんだりもしない。
人間ではない「春」を人間のように表現しているので、この表現技法は

擬人法

ぎ たい ほう

ぎ たい ご

擬態法 ・ 擬態語

本当は音や声を出さないけど、その状態を音によって表現している言葉。

足をからませてたどたどとゆく

実際に「たどたど」と音がしているわけではないが、その様子を「たどたど」と表現している。

したがってこの表現技法は

擬態法 ・ 擬態語

ぎ せい ご ぎ おん
擬声語 (擬音)

音や声をそのまま (聞こえるまま)
表現したものの。

ぼむ ぼうむ ぼむ 町で^{なお}修繕した時計を

ふろしき

風呂敷包みに背負った少年が行く

時計の音を「ぼむ ぼうむ ぼむ」と表現している。実際の音をあらわしているので

擬声語（擬音）

「比喩」以外にも、
詩には様々な表現
技法がある

はん ぶく ほう 反復法

同じ語句を何度もくり返す。

連続した反復と、間隔を置いた反復とがある。

かもめかもめ去りゆくかもめ

「かもめ」という語句をくり返し使用している。
したがってこの表現技法は

反復法

とう ち ほう 倒置法

語や文節を，普通の順序とは逆にする表現方法。

読者の印象を強めたり，語調を整えたりするために用いられる。

人間よ、もう止せ、こんな事は。

本来なら、「こんな事は、もう止せ」という語順になる。語の順番が逆になっているので、この表現技法は

倒置法

対句法

一対になる語句（よく似たもの，反対のもの）を用い，対照的に表現する方法）

よしきり ほお
耳には行行子。頬にはひかり。

聴覚（聞く）と視覚（見る）の対照。 ^{よしきり}「行行子」
はウグイス科の小鳥のこと。
したがってこの表現技法は

対句法

しょう りやく ほう

省略法

言葉を省くことで余韻を残し，読み手に連想させる。

今夜み空はまっ暗で、暗い
空から降る雪は . . .

「. . .」と最後まで言い切らず、言葉を省略して余韻を残しているのです、この表現技法は

省略法

たい げん ど
体言止め

終わりに名詞を置き，強めたり，余韻を残したりする表現技法。

重箱のように狭くなるしい
この日本。

「日本」と名詞で終わっているのて、この
表現技法は

体言止め

このようにいろいろな
表現技法

が詩には使われています。
それぞれの表現技法の効果を感
じながら、詩を味わってみま
しょう！

